

令和6年度 全国学力・学習状況調査に係る本市の結果公表

令和6年8月28日 公表

1 調査の概要について

(1) 調査のねらい

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、教育施策の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善を行うことをねらいとしています。

さらに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てていきます。

(2) 調査対象（参加者数）

ア 小学校第6学年（752人）

イ 中学校第3学年（723人）

※ 参加者数は、国語科の調査に関する参加者数です。

(3) 調査内容

○ 小学校第6学年： 国語、算数、児童質問紙

○ 中学校第3学年： 国語、数学、生徒質問紙

○ 各小・中学校： 学校質問紙

(4) 実施日

令和6年4月18日（木曜日）

2 結果の概況について

(1) 学力の状況について

ア 小学校第6学年

	国語	算数
始良市の平均正答率(%)	73.0	66.0
鹿児島県の平均正答率(%)	69.0	62.0
全国（公立）の平均正答率(%)	67.7	63.4

- 全教科で全国平均を明確に上回っています。
- 国語は、考えやその根拠・理由を明らかにしながら書くことや、読書に親しませるための取組の充実が成果に結び付いていると考えられます。
- 算数は、課題を解決する過程を書いて説明する指導や、学んだことが定着するまでの繰り返しの指導の充実が成果に結び付いていると考えられます。
- 課題として、国語、算数ともに状況に応じて必要な話題や情報を選択して考えたり、考えたことを筋道立てて説明したりする力をさらに伸ばしていく必要があると考えています。

イ 中学校第3学年

	国語	数学
始良市の平均正答率(%)	56.0	51.0
鹿児島県の平均正答率(%)	56.0	50.0
全国(公立)の平均正答率(%)	58.1	52.5

- 県平均と比較すると、国語は同程度、数学は本市が上回っているものの、全国平均と比較するといずれもわずかに下回っています。
- 国語、数学ともに、目的に応じて必要な情報に着目して考えを整理したり、整理した考えや考えの道筋を論理的に説明したりする力をさらに伸ばしていく必要があると考えています。
- 共通する課題について、現在の指導をさらに充実・深化できるよう、市内の学校全体が成果を共有しながら学力向上への取組を進めていきます。

(2) 学習の状況について

調査結果の中で、全国の回答結果と比較して、特徴的な内容は次のとおりです。

- 自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合が、小学校では全国よりわずかに低く、中学校では同程度である。【自己肯定感】
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあると思う児童生徒が多く、その割合は、小・中学校共に全国と同程度である。【ウェルビーイング】
- 課題の解決に向けて自分で考え、取り組んでいると思う児童生徒の割合が、小学校では全国より高く、中学校ではやや低い。【主体的な学習】
- タブレットの活用は、小学校、中学校共に全国より進んでいる。【ICT活用】
- △ 国語や算数(数学)で学んだことが、将来役に立つと思う児童生徒の割合が、小・中学校共に全国に比べてやや低い。【学ぶ意義の実感】

(3) 今後の取組

本市は、「学力向上アクションプラン推進事業」を中心に、各中学校ブロックを単位とした共通実践、研究授業を通じた研修会の実施など、学校・家庭・地域が一体となった学力向上の取組を推進しています。

今回の全国学力・学習状況調査結果の成果や課題の分析を受け、学力向上アクションプラン推進会議で本年度の取組の重点の確認を行い、各校では、自校の成果と課題を明確にし、実態に応じて重点取組内容を具体化して、学力向上の取組を進めていきます。

3 家庭・地域へのお願い

学習習慣の定着のためには、落ち着いた心で学習に臨むことができる環境づくりや、学ぶ意欲を高める働きかけとともに、家庭学習の習慣化が大切です。各家庭では、低学年の時から家庭学習にしっかり取り組めるよう環境を整え、子どもたちのがんばりを認めることを中心にしながら、粘り強い声かけや励ましをお願いします。(4月当初に学校から配布される「家庭学習の手引き」を参考にしてください。)

子どもたちが将来の夢や希望に向かって努力できるよう、引き続き、学校・家庭・地域が協働した支援や働きかけをよろしくお願いします。